

若者の拠り所となるコミュニティ施設



コロナ禍で分断された人々が抱える社会問題と人と人との繋がり希薄化による地域課題。そこで、地域と繋がるキッカケがあり、いつでも頼れる知り合いの輪を広げられる環境となり、今の時代に適した若者の拠り所となるコミュニティ施設を提案する。

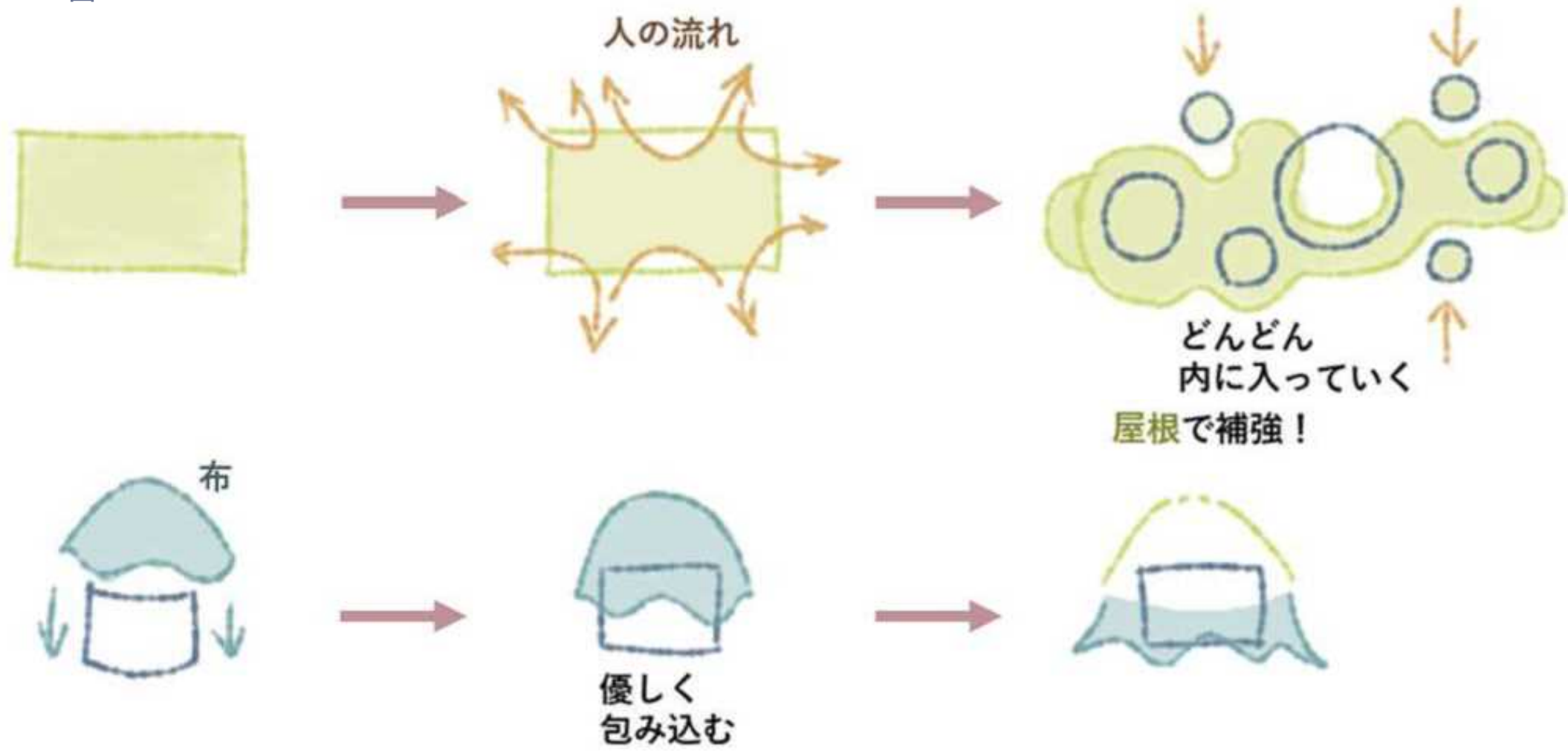
本計画は、居場所を無くし孤立した若者と地元地域の関わりを強化させ、コロナ禍で分断された人々が抱える社会問題や人と人との繋がり希薄化による地域課題の解決への道筋となる。その結果、地域との根強い繋がりが広がり、さらなる展開へと続いていく。

行雲流水



禅語「行雲流水」の考え方を計画に取り入れる。「行雲流水」とは、どんな物事にも執着せず、雲のように行き、水のように流れるかのように自然に身を任せて行動することの例えである。まさに、人の人生も同じではないだろうか。「行雲流水」の気持ちで、行き詰まったり焦ったりしている状況から距離を置き、自然体で自身を振り返ることが必要だと考えられる。したがって、この自主・自由・自立の理念を計画のテーマとして計画を進める。

設 警

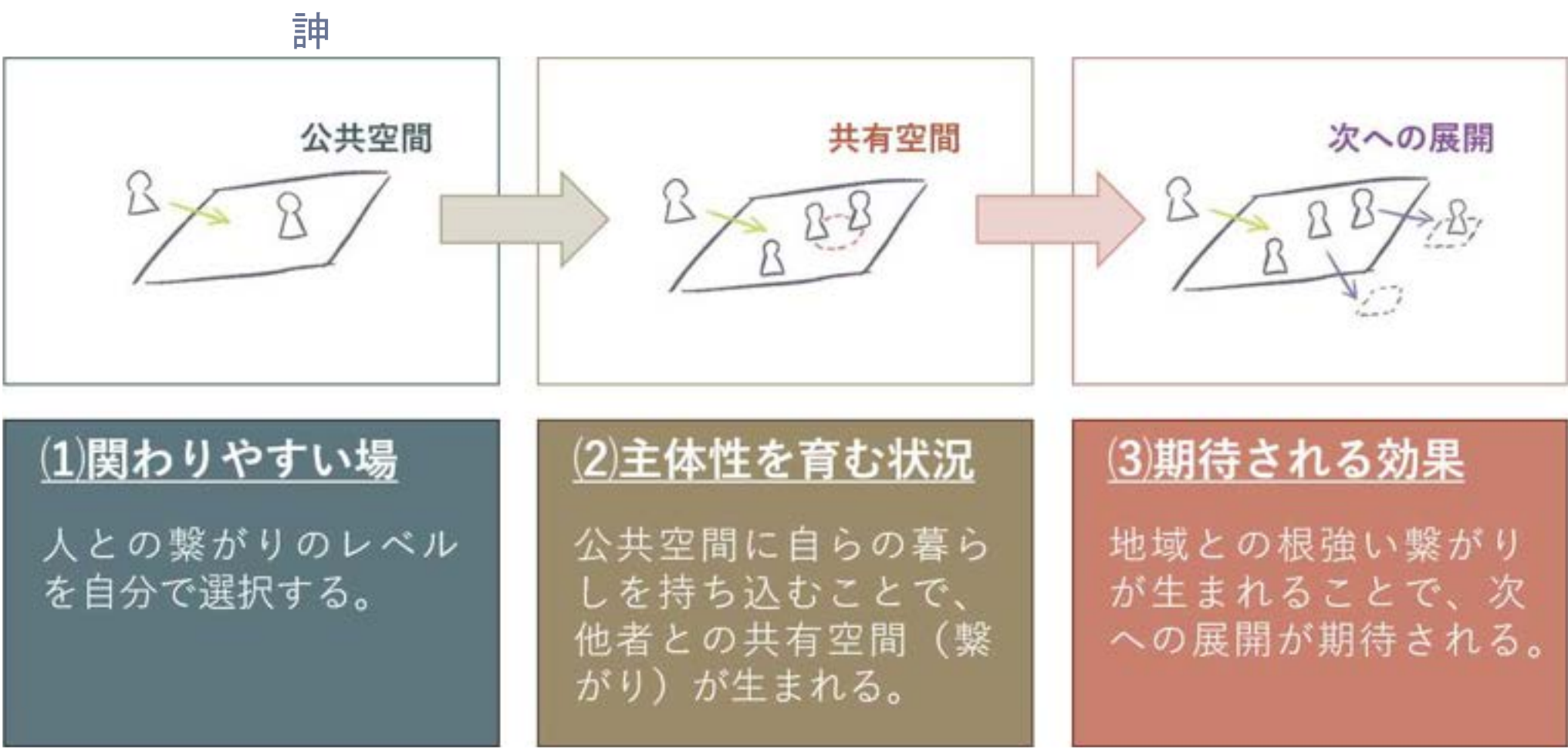
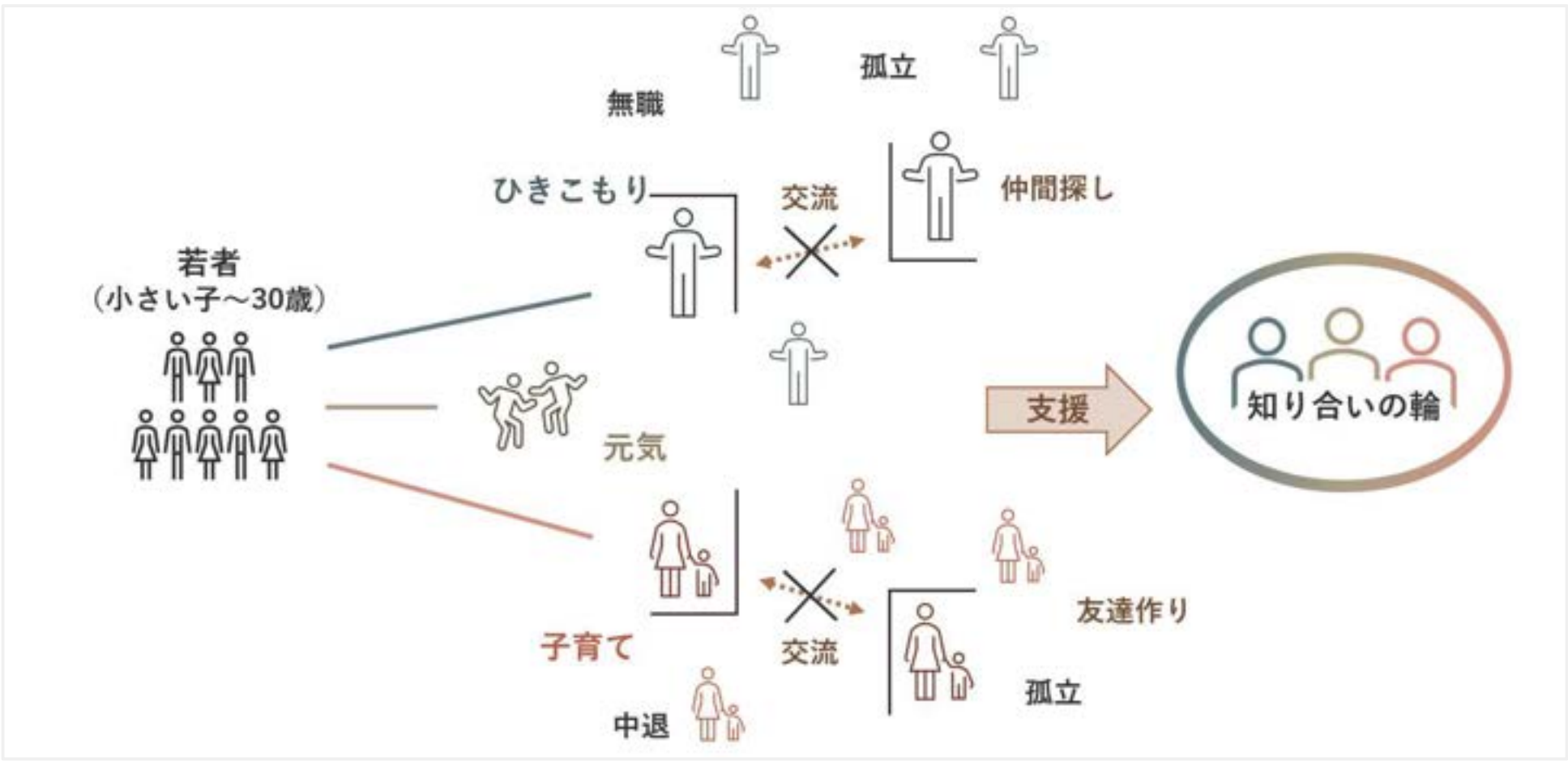


尾道の特有性

- ・高低差
- ・狭い通路
- ・入り組んだ通路
- ・ずれる視線
- ・もふもふ
- ・やさしさ

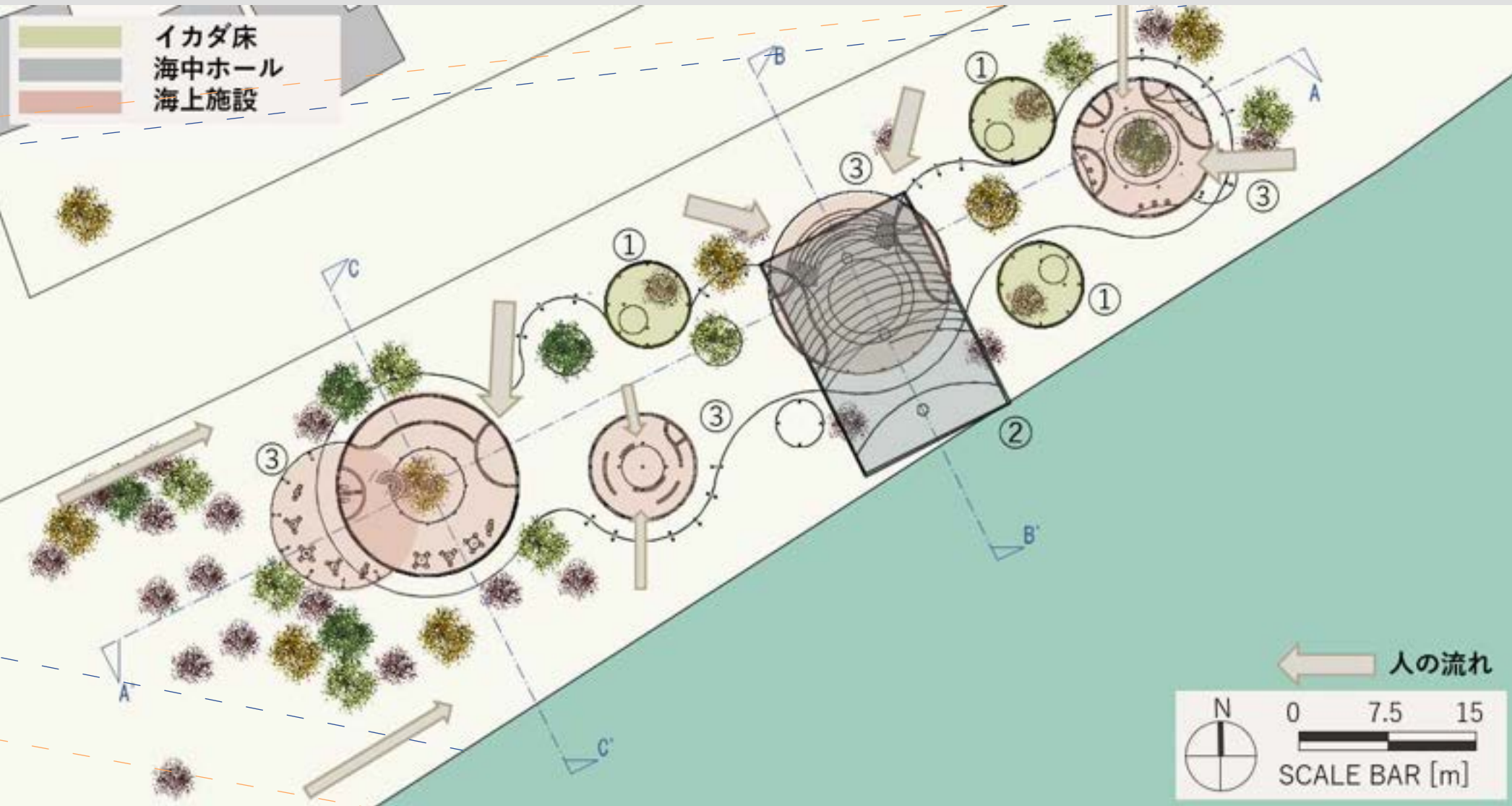
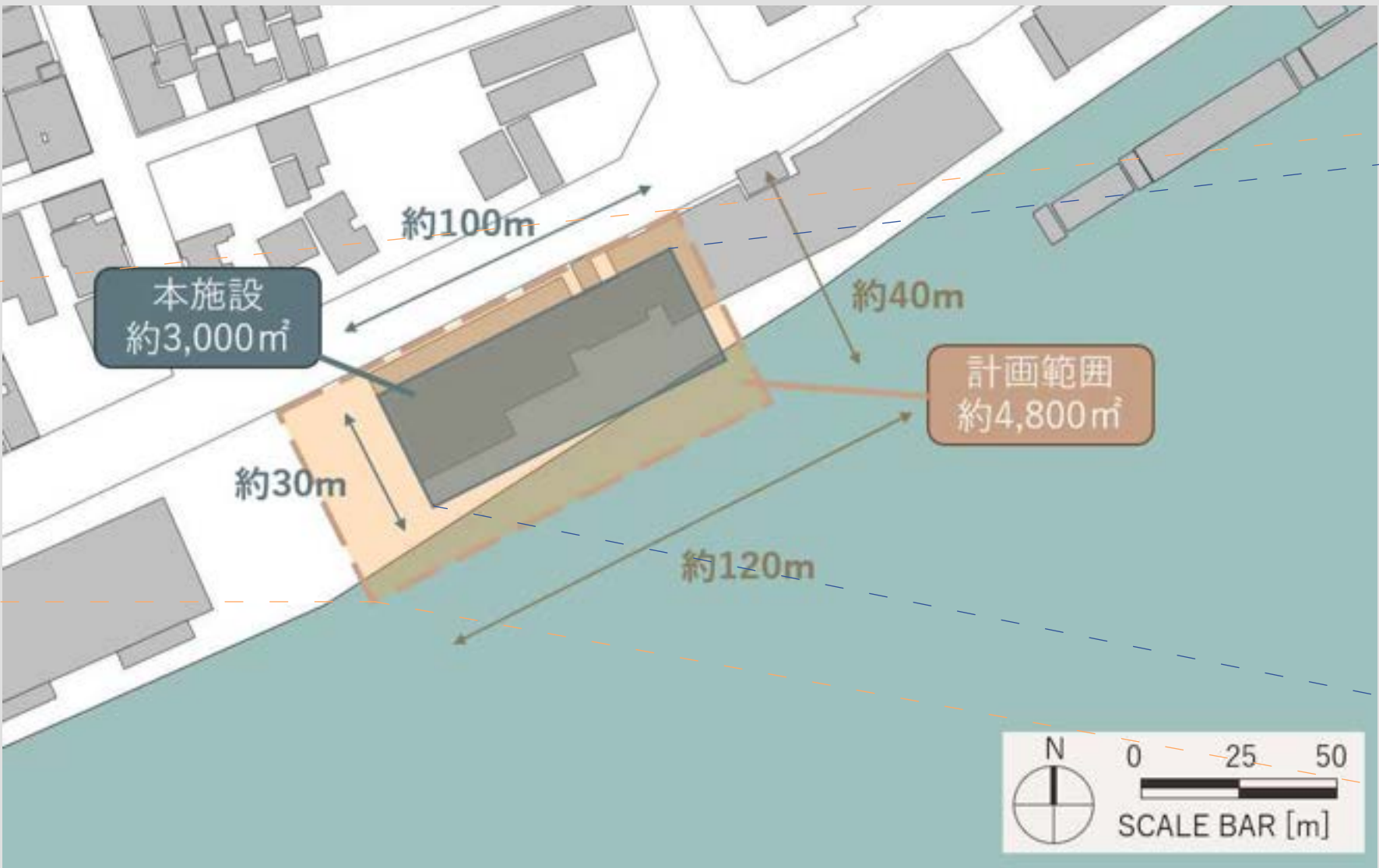
『愛される建築』とは

- ・人と居るような建築



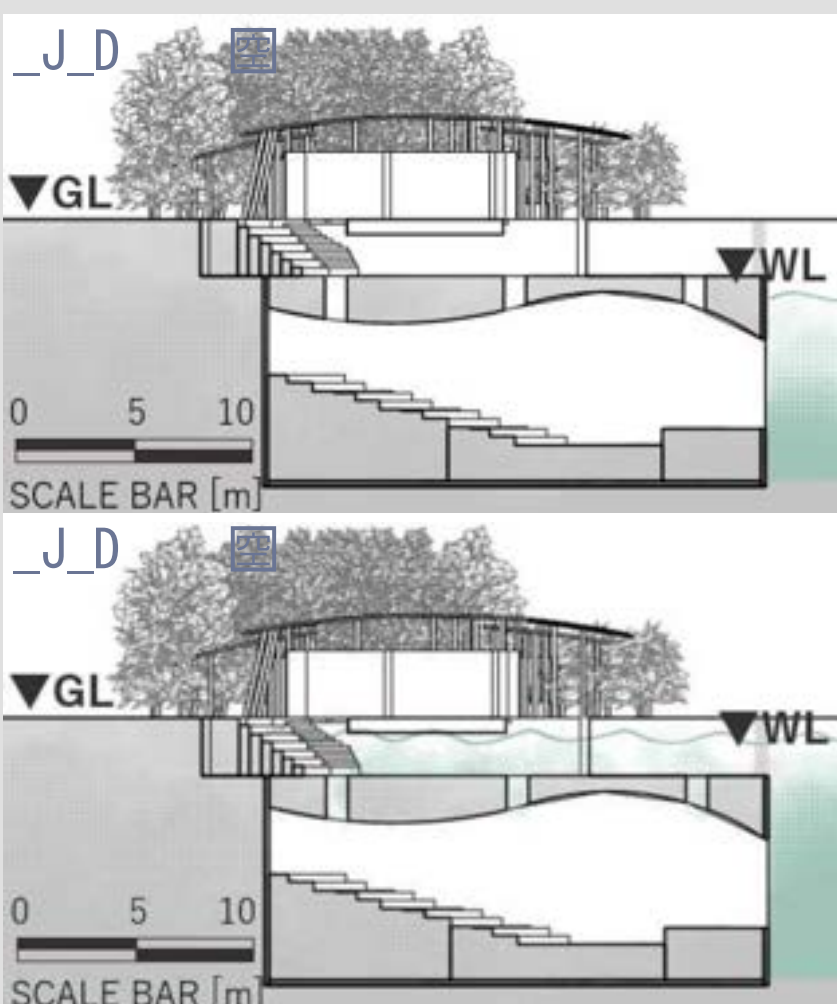
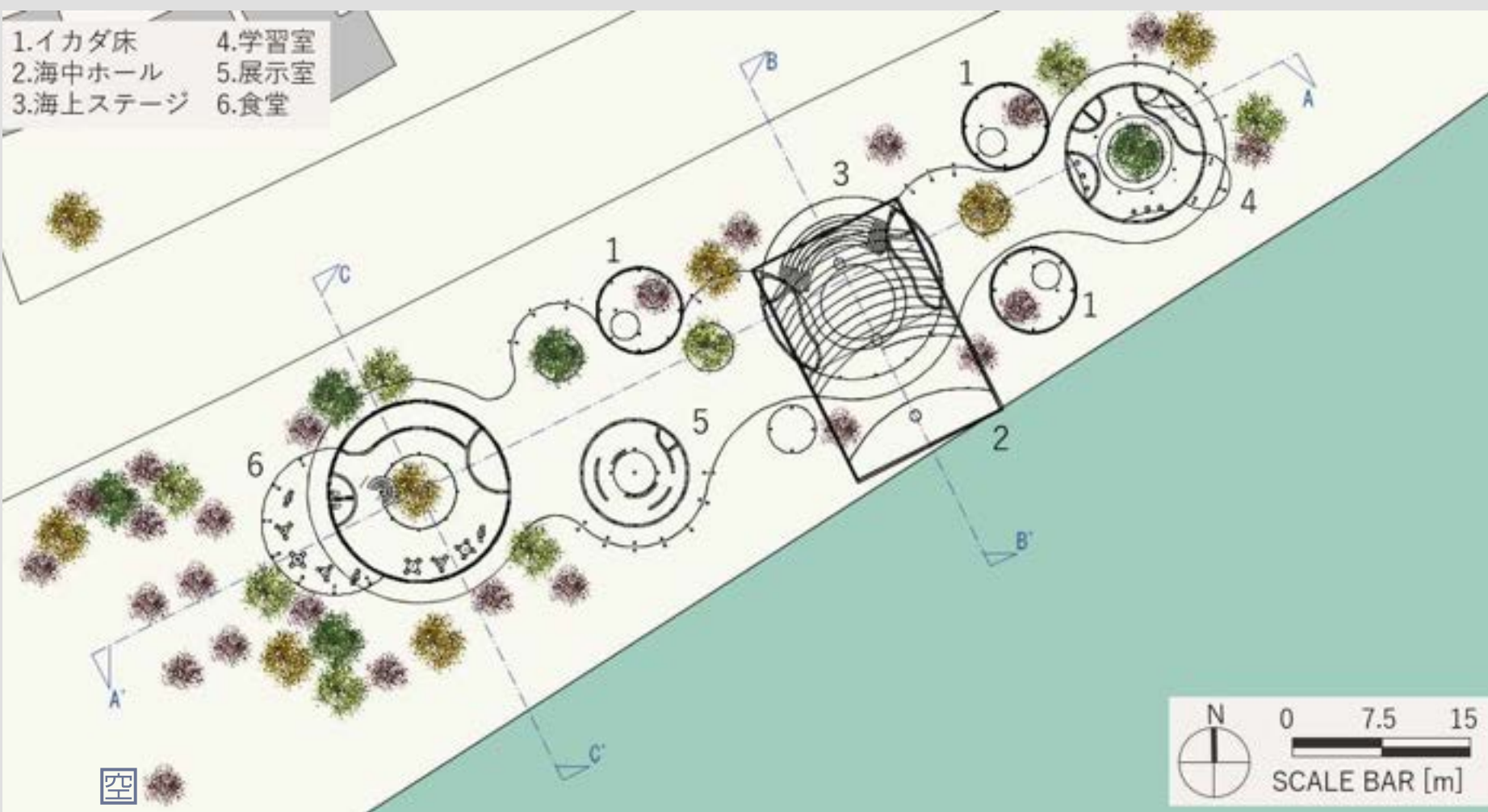
計画施設	②海中ホール	①イカダ床	③海上施設
コンセプト	滞在型 静か	散策的誘導型	賑やか
用途	・コンサート（予約制） ・演劇（予約制） ・瞑想 ・学習室（学習支援）	・茶室 ・瞑想 ・地域の方とお話し会 ・催し物	・ライブ（予約制） ・食堂（子育て支援） ・展示室、アトリエ ・学習室（学習支援） ・児童館（子育て支援）

これからは人と人との繋がりを促す空間を加える必要がある。



自然が身近にある場所として、尾道を挙げる。

計画範囲の東側は駐車場や広場に活用する。



平均干満差3.17m 水深7.5m

